

砺波チューリップ公園 南門周辺の再整備について

1 南門周辺の現状と課題

①芝生広場エリア

樹木密集等に伴い閉鎖的な印象。管理棟はバリアフリー非対応。資材等保管場所が不足。

②南門エリア

南門周辺は入口が狭くわかりにくい。フェア時には仮設対応が必要。

③遊具広場エリア

休憩施設が不足。各エリアを樹木等が分断し、有効利用できていない。

④郷土資料館周辺エリア

駐車場がわかりにくい上、駐車可能台数が少ない。園路は樹木根上りによる段差・破損が発生。

課題③ 遊具広場エリア

- ・屋根付き休憩施設がなく、遊具の老朽化が進んでいる上遊具広場と園路の間には段差がある。
- ・芝生広場と遊具広場の間は園路や生け垣で分断されており、一体的な利用の妨げとなっている。
- ・園路には樹木による根上り等がみられる。



課題④ 郷土資料館周辺エリア

- ・郷土資料館側駐車場は樹木で遮られ、存在がわかりにくく、また駐車可能台数が少ない。(8台)
- ・老朽化や樹木の根上りによる園路の段差が発生している。

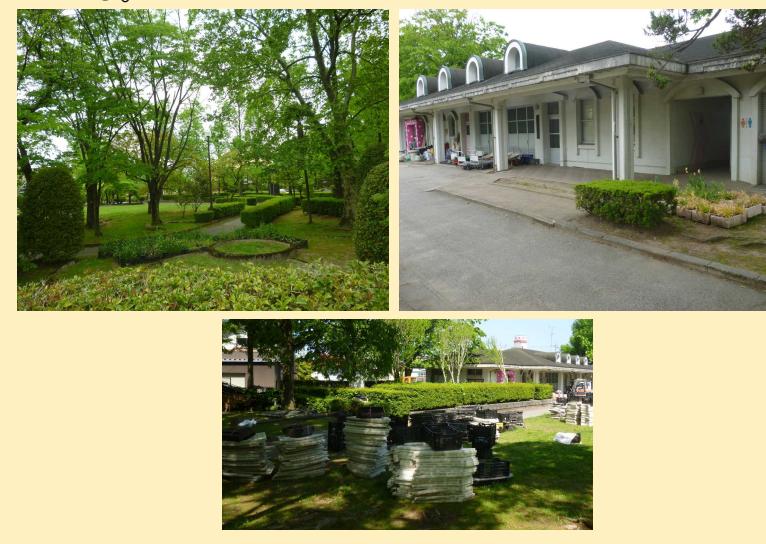


砺波チューリップ公園南門周辺平面図



課題① 芝生広場エリア

- ・樹木や生け垣が密集し、死角等が多く防犯上の不安があり、暗い印象や閉鎖的な印象を与えている。
- ・管理棟には多目的トイレがなく、入口も段差があるなどバリアフリー対応がされていない。
- ・堆肥や作業機械等の保管場所が不足しているため、公園利用者の目につく場所においてあり、公園の印象を損ねている。



課題② 南門エリア

- ・砺波駅方面からの玄関口となるが、入口が狭くわかりにくい。
- ・フェア時にはチケット販売や受付等を行うためのブースやテントを仮設で設置している。

